

コロナに気を配りながらの安全保育

空気が気持ちよく、外遊びがうれしい5月でした。後半は雨の多い日もありましたが、爽やかな空気の中、各クラス散歩など楽しんできました。昨年の4・5月は、保育園の周りは休校中の子どもたちや親子連れがとても多くて、園外に出るのはためらわれ、園庭遊びが中心となっていたことが思い出されます。今年度も緊急事態宣言は引き続き発令中で、感染はどんどん広がっており、感染対策には手が抜けないのが現状です。幸い、ののかぜ保育園ではまだ感染者は出ていませんが、いつ発生してもおかしくない状況になっています。

引き続き、細心の注意を払いながら、子どもたちの安全保育を守っていきたいと考えています。



さつま芋の苗…大きく育てね

今年度もさつま芋の苗の植え付けをしました。

まず、苗を持って子どもたちに“これな～んだ”とすみれさんにおじゃましました。Sちゃんが“みどりのはっぱ”と元気に答えてくれました。他の子たちは…“わかんない～”でした。

続いてそらの部屋に行って質問。“これなんだかわかる？” 子 “だいこん” “カボチャ” と答えが返ってきます。“なのはなさんとさくらさんたちは去年も植えたんだけどな～”と返すと、Nちゃんが“さつま芋”と回答。 続いて、やまの部屋に行っても子どもたちは??? やはり同じように、“なのはなさんとさくらさんたちは去年も植えたんだけどな～”と返すと Sちゃんが“さつま芋！”と答えてくれました。

翌日早速、すみれ、そら、やまのこどもたちと苗植えをしました。水やりや草取りをしながら秋の収穫を楽しみにしたいと思っています。

2021 年度運営総会への参加ありがとうございました

Zoom での開催でしたが多くの方に参加していただきありがとうございました。皆さんの誠実な姿勢に感謝しています。コロナでみんなで集まってということは難しいですが、みんなで気持ちを通わせてののかぜ保育園の保育を共に作り上げて行きましょう！

こんな本はいかが？ 「92歳の現役保育士が伝えたい親子で幸せになる子育て」



この本の著者、大川繁子先生は「小俣幼児生活団」という保育園の主任保育士です。この園だよりの写真からは表情が読み取りにくいかもしれませんが、とても柔らかい笑顔の“おばーちゃん先生です”

「92歳の現役保育士」…というのにひかれて早速読んでみました。この小俣幼児生活団のテーマは、一言で表すと「自由と責任」。「卒園する時には自分の頭で考え、自分の能力を発揮できる力とそれに伴う責任を持てる子になって欲しい」と大川先生は語り始めています。ののかぜでも同じような狙いを持って、遊びを基本に、トラブルやケンカが起こったら友だちと考え合う、話し合うなどの民主主義の基本を学んだり、発達の土台をを作る基礎を大事にしています。本の中では「2,800人見て来た私の子育てのコツ」として保護者の相談などにも

丁寧に応じています。ぜひ一読してみたいはいかがでしょうか？ 必要な方は事務室にもありますので一声かけてください。